Mémoire 2024

第58回 スプリンターズステークス(GI)

無心でつかみ取ったビッグタイトル　ルガル

春の悔しさを晴らし、馬も騎手も嬉しいGI初制覇を成し遂げた。

香港からビクターザウィナー、ムゲンの2頭を迎えた秋の短距離王決定戦。前年の勝ち馬でJRA賞最優秀スプリンターを受賞したママコチャ、この年の高松宮記念の覇者マッドクールらを抑え、1番人気には春雷S、函館スプリントS、キーンランドCと3連勝中でサマースプリントシリーズのチャンピオンにも輝いた、サトノレーヴが推された。

レースは葵S、北九州記念といずれも逃げ切っている3歳牝馬ピューロマジックが飛ばし、縦長の展開となった。前半3ハロンはスプリンターズSがGIに昇格した1990年以降で最速の32秒1。後続を離したまま直線を向いたピューロマジックにいち早く迫っていったのは、道中は3番手を追走してきたルガルだった。

直線半ば、残り100㍍でピューロマジックを捉えて先頭に立ったルガルに、セントウルS勝ちのトウシンマカオ、ママコチャらが襲いかかる。大外からは悲願のGI制覇を目指すナムラクレア。ゴール前は大激戦となったが、ルガルがクビ差、凌ぎ切っていた。

重賞初制覇のシルクロードSは3馬身差の圧勝で、高松宮記念では1番人気に支持されながら10着と大敗したルガル。レース後には前膝の骨折が判明し、約半年ぶりのレースとなったこの日は9番人気と評価を落としていたが、杉山晴紀調教師が「ギリギリ間に合いました」と明かしたように、ブランクを感じさせないパフォーマンスだった。

25歳の西村淳也騎手はデビュー7年目で念願のGI初制覇。目に涙を浮かべ、ゴール後には何度も天を仰いだ若武者は「本当に騎手を続けてきてよかったです。競馬のことは何も覚えていないです」と初々しく語った。2024年スプリンターズSは、新たなGIジョッキーと新たな短距離王者が同時に誕生した印象的な一戦となった。

第58回スプリンターズS(GI)

9/29　中山競馬場　1,200㍍(芝・右・外)　曇・良　16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ルガル	牡4	58	西村　淳也	杉山　晴紀	1:07.0	⑨	3 3
2	トウシンマカオ	牡5	58	菅原　明良	高柳　瑞樹	クビ	⑤	7 6
3	ナムラクレア	牝5	56	横山　武史	長谷川浩大	クビ	④	12 12
4	ママコチャ	牝5	56	川田　将雅	池江　泰寿	クビ	②	5 5
5	ウインマーベル	牡5	58	松山　弘平	深山　雅史	1/2	⑦	8 6

ルガル
栄光の蹄跡

13

ドゥラメンテ　113 S
ルガル
アタブ(New Approach)
2020.3.7 生　浦河・三嶋牧場

牡4 青鹿 58
西村　淳也（にしむら　あつや）
1999.7.30生　B型
江馬 由将氏
杉山 晴紀(栗東)

2024.3.24　中京	2024.1.28　京都	2023.11.26　京都
高松宮記念GⅠ	シルクロードSGⅢ	京阪杯 GⅢ
18ト 1人 **10**(97)	18ト 2人 **1**(113)	18ト 1人 **2**(106)
58ﾀﾞ　西村 淳也	57.5ﾀﾞ　西村 淳也	56ﾀﾞ　西村 淳也
芝1200重　1:10.1	芝1200良　1:07.7	芝1200良　1:07.7

※昨年のカラー版出馬表より抜粋